地域をまもろう

自助、そして共助

公助（防災機関による対応）には限界があります。

わたしたちの地域に起こる浸水から大切な命をまもるために、まずは自助（自分の命は自分でまもる）、そして共助（自分たちの地域をみんなでまもる）を意識することが大切です。

災害が起きたとき、誰かに頼りきりになって判断をゆだねるのではなく、自分たちの命を自分たちでまもるため、主体的に災害に備える姿勢を地域全体で共有しましょう。

共助を実現するために

地域の安全な避難を実現するためには、地域主導の防災活動が有効です。

たとえば、地域での避難訓練では、普段話す機会の少ない近所の方ともふれあいながら、避難経路を検討したり、1人暮らしの高齢者宅などへの声かけ意識の共有を図ることで、地域のみんなで備えることにつながります。

自主防災組織

富山市　自主防災

自主防災組織とは、地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちでまもる」ために活動することを目的として結成する組織です。

そのうち、町内会単位で結成されるものでは、「避難場所・避難経路の検討、避難誘導訓練」や「防災意識の普及・啓発」などの役割を担うことが期待されます。

「共助」の代表である「自主防災組織」を結成することにより、地域防災力を高めるとともに、一人ひとりは開催される避難訓練へ積極的に参加するよう心がけましょう。

避難行動要支援者支援制度

富山市　要支援者

地域の支援を希望される方を避難行動要支援者名簿に登録し、避難支援等関係者（消防･警察、民生委員、自治会･町内会、自主防災組織）にその情報を提供して、災害時の安否確認や避難誘導等に役立てる制度です。

要配慮者利用施設

富山市　洪水ハザードマップ

富山市地域防災計画に記載される要配慮者利用施設（社会福祉施設などの防災上の配慮を要する方が利用する施設）のうち洪水浸水想定区域に位置する施設については、水害時における利用者の安全を確保するための計画を作成し、避難訓練を実施する必要があります。

河川ごとの浸水影響については、富山市ホームページに掲載する【河川別図】をご確認ください。

わが家の避難地図

自宅から避難場所までの安全な避難ルートを描いてみよう

【ポイント1】
緊急時に見てわかるように！

避難場所 1	①自宅、②避難場所、③安全なルート（出来れば複数）
想定する状況	
気をつけること・場所	

【ポイント2】
早めに避難できるときとそうでないときなど、状況に応じて安全に避難できるよう複数の避難先を想定しておきましょう。

避難場所 2	①自宅、②避難場所、③安全なルート（出来れば複数）
想定する状況	
気をつけること・場所	

【想定する状況】
避難情報が「基本想定」を対象としている場合／「最大想定」の場合
自主避難を含め早い段階での避難が可能な場合／そうでない場合
平日／夜間／休日　など

【気をつけること・場所】
柵のない水路／蓋のない側溝
低地／段差　など

クイズにチャレンジ

答えは本編のどこかに必ずある！探してみよう！

第1問　状況によらず、2階建て家屋で立退き避難が必要な浸水深は何m以上？
（　　m以上）

第2問「全員避難」を意味する、富山市が発令する避難情報とその警戒レベルは？
（　　，　　）

第3問　次のうち、避難するときに適した履物は？
a. 長靴　b. 運動靴　c. サンダル
（　　）

第4問　非常持ち出し品のひとつ、「飲料水」の大人1人あたりの目安は？
（　　リットル）

第5問　次のうち、避難するときの正しい行動は？
a. 行動しやすいようにひとりで避難する
b. 身の危険を感じるので、市からの避難情報が発令される前に避難する
c. 念のため、川のようすを確認してから避難する
（　　）